

東北地方 1か月予報

(8月12日から9月11日までの天候見通し)

平成18年8月11日
仙台管区気象台発表

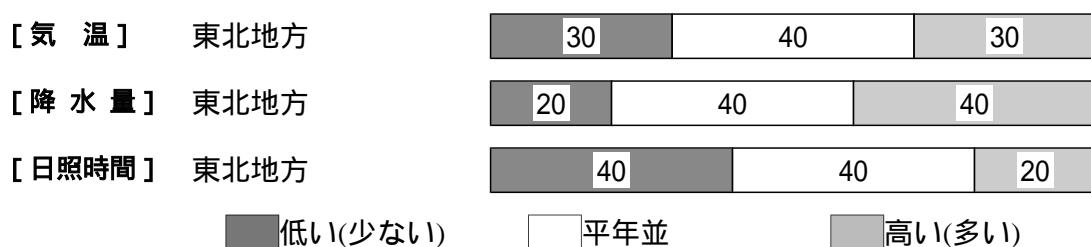
<予想される向こう1か月の天候>

前線や気圧の谷の影響を受けて天気がぐずつくことがあります、太平洋高気圧に覆われて晴れて暑い日もある見込みです。東北地方は平年に比べて曇りや雨の日が多いでしょう。

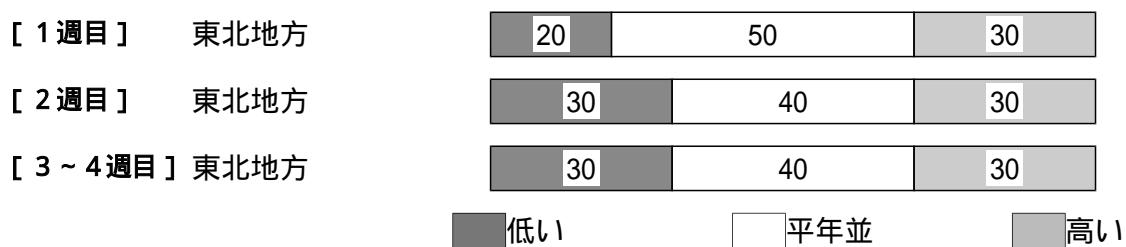
向こう1か月の平均気温は東北地方で平年並、降水量は東北地方で平年並が多い、日照時間は東北地方で平年並か少ないでしょう。

週別の気温は、1週目、2週目、3～4週目共に東北地方で平年並でしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



<気温経過の各階級の確率(%)>



<予報の対象期間>

- 1か月 : 8月12日(土)～9月11日(月)
1週目 : 8月12日(土)～8月18日(金)
2週目 : 8月19日(土)～8月25日(金)
3～4週目 : 8月26日(土)～9月8日(金)

<次回発表予定等>

- 1か月予報：毎週金曜日 14時30分 次回は8月18日
3か月予報：8月24日(木) 14時

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3~4週目の平均気温)

	気温()	降水量(mm)	日照時間(時間)	気温()		
				1週目	2週目	3~4週目
青森	21.9	135.0	178.6	23.2	22.6	21.4
深浦	22.1	173.1	174.7	23.4	22.8	21.5
むつ	20.7	160.4	142.9	21.8	21.3	20.2
八戸	21.3	165.0	157.5	22.5	22.0	20.8
秋田	23.4	191.9	187.4	24.9	24.3	22.7
盛岡	21.9	181.3	142.7	23.5	22.8	21.2
大船渡	22.1	218.8	141.7	23.2	22.8	21.6
宮古	21.3	198.7	146.7	22.4	22.0	20.8
仙台	23.2	189.1	139.0	24.2	23.8	22.7
石巻	22.7	141.2	160.0	23.7	23.3	22.3
山形	23.4	148.4	165.9	24.8	24.3	22.7
新庄	22.7	166.0	155.2	24.2	23.6	22.0
酒田	23.8	190.9	192.3	25.2	24.6	23.1
福島	24.1	150.8	141.0	25.4	24.9	23.6
若松	23.6	128.5	176.8	25.0	24.5	23.0
白河	22.3	237.3	139.7	23.4	23.0	21.8
小名浜	23.5	157.9	176.8	24.1	24.0	23.3

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971~2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.3 ~ +0.5	77 ~ 118	90 ~ 108
東北日本海側	-0.4 ~ +0.6	79 ~ 110	91 ~ 107
東北太平洋側	-0.3 ~ +0.5	72 ~ 119	88 ~ 110

(3) この予報期間の1週目、2週目、3~4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3~4週目
東北地方	-0.6 ~ +0.9	-0.5 ~ +0.8	-0.5 ~ +0.8
東北日本海側	-0.7 ~ +0.9	-0.5 ~ +0.8	-0.6 ~ +0.7
東北太平洋側	-0.6 ~ +1.0	-0.5 ~ +0.8	-0.5 ~ +0.8

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温(降水量)等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971~2000年の30年間ににおける各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10%以下や60%以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1よりも多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成18年8月11日 仙台管区気象台

1. 出現の可能性が最も大きい天候

向こう1か月(8月12日~9月11日):

前線や気圧の谷の影響を受けて天気がぐずつくことがあります、太平洋高気圧に覆われて晴れて暑い日もある見込みです。東北地方は平年に比べて曇りや雨の日が多いでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

1週目(8月12日~8月18日):

期間の初めと終わりは、気圧の谷の影響で曇りや雨の日がありますが、期間の中頃は高気圧に覆われて晴れの日が多いでしょう。

なお、明後日(13日)にかけて、大気の状態が不安定で雷が発生するおそれがあります。

平均気温は平年並でしょう。

2週目(8月19日~8月25日):

前線や気圧の谷の影響を受けて、東北地方は平年に比べて曇りや雨の日が多いでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

3~4週目(8月26日~9月8日):

前線や気圧の谷の影響を受けて曇りや雨の日もありますが、太平洋高気圧に覆われて晴れの日もあるでしょう。東北日本海側は平年と同様に晴れの日が多く、東北太平洋側は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

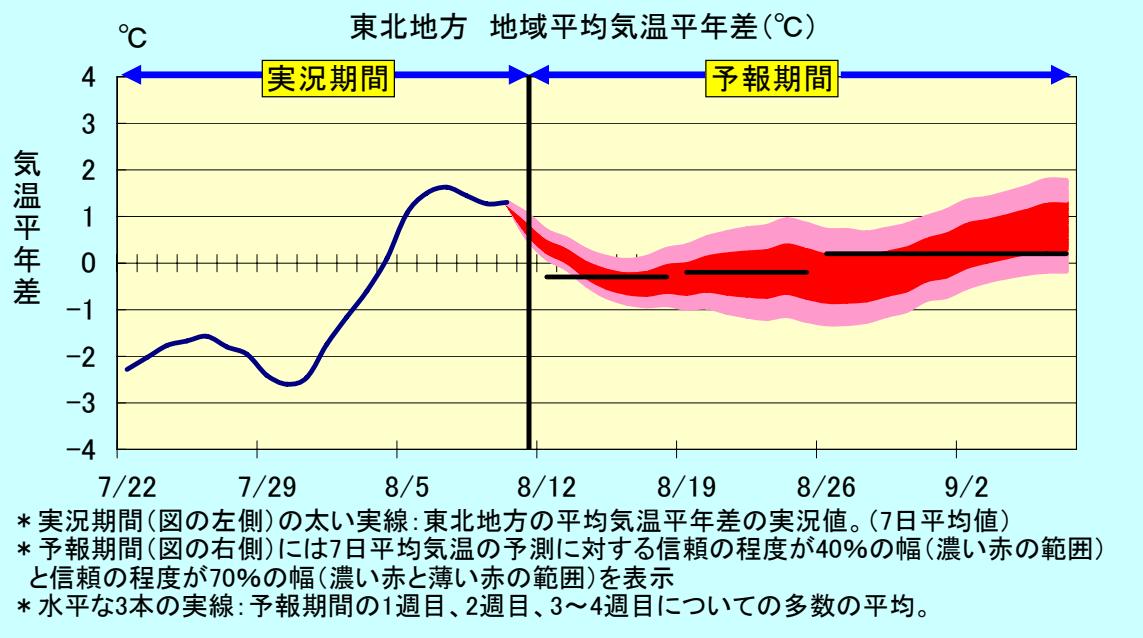
平均気温は平年並でしょう。

平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3~4週目
東北日本海側	15.7日	4.2日	4.1日	7.4日
東北太平洋側	13.2日	3.5日	3.5日	6.2日

2. 東北地方の平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別の気温は、1週目、2週目、3~4週目共に「平年並」と予測している。予報は、数値予報どおりとする。なお、数値予報の信頼度は小さい。

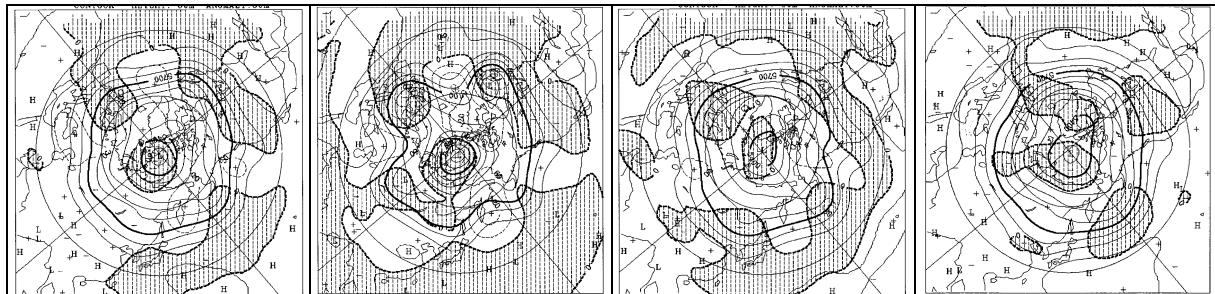


3. 数値予報（アンサンブル平均天気図）による大気の流れの予想

500hPa 高度と偏差：

月平均では、極付近が負偏差でそれを取り囲むように高緯度帯は正偏差となる。日本付近では、朝鮮半島から太平洋上のアリューシャンの南海上まで帶状に負偏差。カムチャツカ半島付近では正偏差となり北海道まで広がる。

1週目は、極付近は負偏差で、カムチャツカ半島付近では正偏差。中国付近は広く正偏差であるが、華南から日本付近と太平洋上の広範囲で負偏差。2週目は、高度場はやや下がり、日本付近は西谷傾向。中国大陸東岸から日本付近は広く負偏差。3~4週目は、日本付近は南海上にある亜熱帯高気圧に覆われる。日本付近はほぼ正偏差だが、華北付近及び日本の東海上は負偏差。



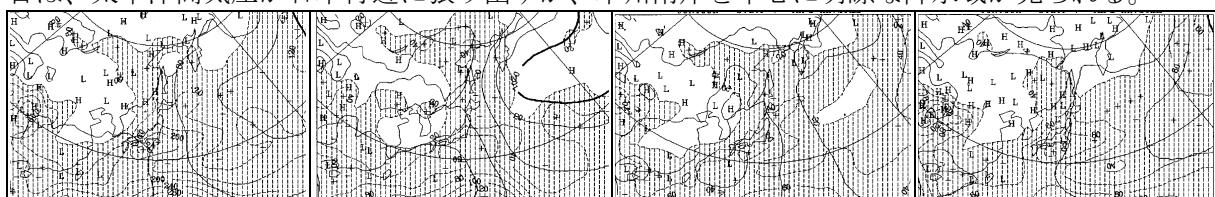
500 hPa 高度予想図（左から）1か月平均、1週目平均、2週目平均、3~4週目平均

実線：等高度線（間隔 60m）、点線：平年差（間隔は1か月 30m、週別 60m）、陰影部：負偏差域（一般に寒気に対応）

地上気圧と降水量：

月平均では、太平洋高気圧が北へ張り出し、西日本以南が低圧部となる。日本の南海上の降水域は熱帯の擾乱に対応し、日本付近では本州南岸を中心に明瞭な降水域がかかる。

1週目は、熱帯の擾乱に対応した明瞭な降水域が本州南岸にかかる。千島の東海上に中心を持つ太平洋高気圧が北日本を覆う。2週目は、太平洋高気圧が北へ張り出し、日本付近は南西諸島を中心に低圧部が広がる。本州南岸を中心に明瞭な降水域があり、東北地方にもかかる。3~4週目は、太平洋高気圧が日本付近に張り出しが、本州南岸を中心に明瞭な降水域が見られる。



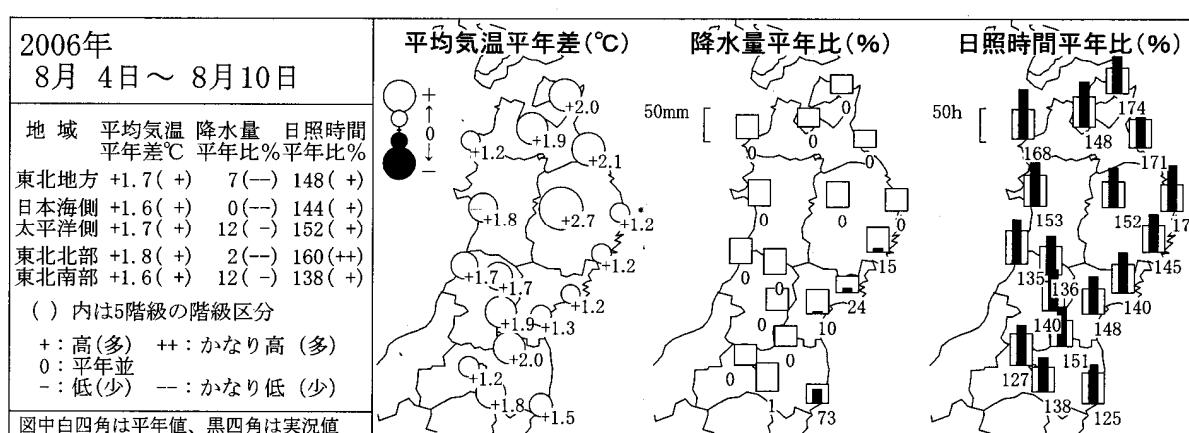
地上予想天気図（左から）1か月平均 1週目平均 2週目平均 3~4週目平均

実線：等圧線（間隔 4 hPa）、陰影部：降水域（1か月 80mm 以上、1週目・2週目 20mm 以上、3~4週目 40mm 以上）

4. 最近1週間（8月4日～8月10日）の天候の経過

この期間、東北地方は太平洋高気圧に覆われて晴れの日が多かった。8日から10日にかけて台風第7号が本州に接近し本州南岸を進んだが、東北地方には大きな影響はなかった。9日と10日には上空に寒気が入り大気の状態が不安定となつたため、局地的に雷雨となつた。

平均気温は東北地方で高い。降水量は東北日本海側でかなり少なく、東北太平洋側で少ない。日照時間は東北北部でかなり多く、東北南部で多い。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）